

『エリン・ブロコビッチ』 原題 ERIN BROCKOVICH 2000



©Sony Pictures Entertainment. Co.

映画批評

『エリン・ブロコビッチ』 原題:ERIN BROCKOVICH 2000

～シングルマザーの就職活動から、環境汚染訴訟へと

塚田三千代（翻訳家・映画アナリスト）

© m.tsukada

3人の子供を持つシングルマザーの就職活動からはじまり、居住地域の水質が汚染されている事実を知り、病害で苦しむ親や子供たちを救うための署名を集めて訴訟を起こすが、その規模の大きさや資金不足のために怖気出すエド・マスリー弁護士を鼓舞奮起させ、公害専門の弁護士の協力も得てついに調停が成立するまでの実話。この主人公エリン・ブロコビッチとエド弁護士や住民たちをドキュメンタリー・タッチで描いた映画。水汚染の公害訴訟で、アメリカ史上初の高額な和解金を手にした驚くべき事実にもとづいて製作された。

映画は、3人の子供を養うシングルマザーの就職活動からはじまり、地元地域が水質汚染に侵されている事実を知りことになり、病害で苦しむ親や子供たちを救うための署名を集めるが、その規模の大きさと資金不足のために怖気出すエド・マスリー弁護士を鼓舞奮起させ、公害専門の弁護士の協力も得てついに調停が成立するまでの主人公エリン・ブロコビッチと

エド弁護士や住民の姿をドキュメンタリー・タッチで描く。

本映画のポイントは2つある。まず、水質汚染訴訟の第一歩から始まり、大原告団の結成、裁判か調停かの選択を迫られる様子を会話で描ききっていること。次は、伏線としてワーキングマザーと子供たちとの愛情にあふれる絆と交流を描いていることである。

この主人公エリンを演じたことで、ジュリア・ロバーツは第73回アカデミー最高主演女優賞(2000年度)を射止めた。ちなみに本映画の特徴は早口でしゃべりまくる「言葉」にもあるのだが、それは、何かにつけて罵声や卑語を連発して窮地から立ち上がろうとするエリンという女性の意地と意気込みを、ジュリア・ロバーツの強かならぬ演技による受賞。

【映画のセリフ】

考えさせる会話とシーン

- ① "Do they teach beauty queens how to apologize? Because you suck at it."
- ② "I think we got off on the wrong foot here."
"That's all you got, lady. Two wrong feet in fucking ugly shoes."

註:上記①のセリフは映画の始めと終わりシーンにでるセリフである。このほかにも、本映画には例えば罵声的なセリフを言いながらも lawyers と beauty queens を入れ替えるだけで、立場が入れ替わった状況の中で十八番(おはこ)を先取りしたかのような雰囲気を出している。これが効果的なセリフとなっている。

【映画分析】

●トピック／テーマ／メッセージ ⇒情報・学習効果

- ・各機関の知識：法律事務所、水質管理局、裁判所、大学研究所の調査協力
- ・公害訴訟の行程：

弁護士への代理依頼、裁判所へ提訴、判事の裁定、大原告団の結成、調停／和解交渉、和解価格

- ・ワーキングマザーと子供たちとの心の交流、ベスの初めての発話“BALL”

●コミュニケーション・スキル／ストラテジー (communication skill /strategy)

- ・説得／交渉／会話を運ぶ効果的な表現

●言語

- ・法律用語、病名、慣用表現
- ・米語、感情を発露することば(罵声、卑語、マナーとの関連)も多出

映画英語は音声を伴う現実性 (reality) や迫真性 (authenticity) のある英語である

・映画のセリフ (movie line) ➡

【資料】

- ・名作映画完全セリフ集「エリン・ブロコビッチ」(ERIN BROCKOVICH)
- ・DVD: 「エリン・ブロコビッチ」(ERIN BROCKOVICH)
- ・発売元: Sony Pictures Entertainment Co.

【映画リテラシー】

●ライフスタイル: 1966年代のシングルマザーの就職活動 ・働く女性と子供たち

●言語: 米語、専門用語(病名、法律用語)、罵声語、慣用表現

●コミュニケーション・コンペテンス: 説得、交渉、相互力を習得するために適切

●受賞: 第73回アカデミー主演女優賞 ジュリア・ロバーツ

NY批評家協会賞 監督賞 スティーヴン・ソダーバーグ

LA批評家協会賞 女優賞 ジュリア・ロバーツ

英国アカデミー賞 主演女優賞 ジュリア・ロバーツ

●『エリン・ブロコビッチ』(ERIN BROCKOVICH)

●©Sony Pictures Entertainment. Co.

●SCREENPLAY 名作映画完全セリフ集「エリン・ブロコビッチ」スクリーンプレイ出版

●キャスト&スタッフ (CAST & STAFF)

・エリンを演じたジュリア・ロバーツ (Julia Roberts) はジョージア州出身のハリウッド女優。『マグノリアの花』 Steel Magnolias (1989) でアカデミー助演女優賞にノミネートされ、『プリティ・ウーマン』 Pretty Woman (1990) で主演女優賞にノミネートされる。本作品では、これまでのロマンティック・コメディのヒロインとはまったく違った役柄にチャレンジして、2000年度(第73回)アカデミー主演女優賞を受賞した。

・弁護士エド・マスリーを演じたアルバート・フィニー (Albert Finney) は英国出身。『トム・ジョーンズの華麗な冒険』 Tom Jones (1963)、『オリエント急行殺人事件』 Murder on the Orient Express (1978)、『ドレッサー』 The Dresser (1983)、『火山のもとで』 Under the Volcano (1984) の4作では、アカデミー主演男優賞にノミネートされた実力派の俳優である。『エリン・ブロコビッチ』では助演男優賞にノミネートされた。

・監督のスティーヴン・ソダーバーグ (Steven Soderbergh (1963-)) は、ロバート・レッドフォードが主催する「サンダンス・インスティテュート」出身の監督。第1作『セックスと嘘とビデオテープ』 Sex, Lies, and Videotape (1989) でカンヌ映画祭パルム・ドール賞を受賞している。『エリン・ブロコビッチ』と『トラフィック』でアカデミー賞のダブル候補に上がり、『トラフィック』で監督賞のオスカー像を手中にした。ソダーバーグは現地ロケを多くし、ドキュメンタリー・タッチの映像でリアリティ感を演出することにこだわる監督である。

・脚本はスザンナ・グラント (Susannah Grant (1963-)。彼女が脚色した『ポカホンタス』 Pocahontas (1995)、『エバー・アフター』 Ever After (1998)などの作品で、自分の可能性を信じて人生を切り開いていく新しいタイプの女性を描いている。『エリン・ブロコビッチ』も然りである。

【映画情報】

2008年2月サロンパスルーブル丸の内他全国ロードショー

Sony Pictures

Genre: Adventure / Family / Fantasy

MPAA : Rated PG for some action/peril, mild language and brief smoking.

Language: English. Scots (*パブで地元の人たちが話すのはスコットランド英語)

監督: スティーヴン・ソダーバーグ

脚本: スザンナ・グラント

出演: ジュリア・ロバーツ (エリン・ブロコビッチ)

アルバート・フィニー (エドワード・マスリー)

ジョージ (アーロン・エッカート)

ドナ・ジェンセン (トレイシー・ウォルター)

カート・ポッター (ピーター・コヨーテ)

パメラ・ダンカン (チェリー・ジョーンズ)

© 2016 m.tsukada. All Rights Reserved.